

## ネット上の金融犯罪阻止へ

# 静岡が不正検知システム 企業と開発 資金移動を停止

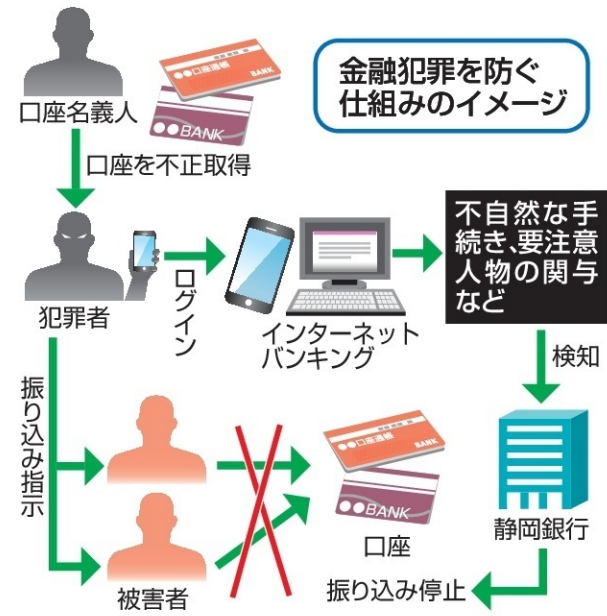
投資詐欺やロマンス詐欺など手口が多様化、複雑化するインターネット上の金融犯罪対策として、静岡銀行は口座開設時の本人確認プラットフォームなどを運営するアクシオン(東京)と不正検知システムを共同開発し、本格運用を開始した。同行での実証実験では資金の不正移動を7営業日で22件防ぐなど高い効果が得られたとし、今後は他行への展開や一層の精度向上に取り組む方針。

他人の預金口座を不正入手した犯罪者がネットバンキングにログインした際の不自然な手続き、要注意人物の関与が疑われるケースなど、過去の犯罪データや多発する手口を基に想定し

た詐欺の予兆をシステムで検知する。複数項目に当てはまる口座は静岡銀行が振り込み金の停止措置を講じ、振り込まれた現金は同行が仮受けして一時保管する。その後、正常な手続きが確認されれば口座へ入金し、不正が認められる場合は振り込み人に連絡して被害を防ぐ。

## 実証実験 高い効果

実証実験は10月下旬～11月上旬の7営業日で行い、合計で数億円規模の詐欺被害を食い止めたという。今後、次々と生まれる新たな



手口をシステムに学習させ、精度を上げながら詐欺の抑止力を高める。他の金融機関にも活用を提案し、業界全体での対策強化につながる考え。

一方、同システムは全て

のネット詐欺に対して万能でないとし、同行担当者は「決して安心せず、だまされるリスクには常に注意を払って」と呼びかける。

(経済部・金野真仁)